

平成 26 年度 大館市立図書館『200 字感想文』一般編

260005 田代 140402

書名	東京タクシードライバー	著者	山田 ^{せいき} 清機
マイナーな職業と見られる、タクシードライバーになった人々の、そこにいたるまでの人生模様、乗客との会話、一日の売り上げを伸ばすための努力、計算等、一般の人々には知る事の出来ない苦労が読み取れる。			
請求記号:	/685/ヤ/	感想文を書いた人:	(無記名)

260006 田代 140402

書名	怒り (上・下)	著者	吉田 修一
一人の殺人者に翻弄された、三組の親子・恋人・同級生。信じるとは何か、また信じきれなかった故の後悔。第二の殺人事件は何故起きてしまったのか。 第一の事件で側に書かれていた血文字の“怒り”は何を意味していたのか。 人はほんの少しの疑問から人を信じきれず、必要のない苦悩をかかえてしまう。			
請求記号:	/913.6/ヨ/	感想文を書いた人:	(無記名)

260007 田代 140402

書名	約束の海	著者	山崎 豊子
海上自衛隊の最新鋭潜水艦の存在には驚きです。初めて知りました。艦内での苛酷で非常な任務に就いている若き潜水艦士が作中の人物です。規律と国家の重責を担うなかで、漁船との事故に遭い、心に深い傷を負うことになります。誠実さゆえに、迷いと苦悩の日々を送るひとりの青年が描かれています。 完結編に届かず作者の遺作となってしまう惜しい気持ちでいっぱいです。 残念でなりません。大好きな作家でした。			
請求記号:	/913. 6/ヤ/	感想文を書いた人:	パンセの隣人

平成 26 年度 大館市立図書館『200 字感想文』一般編

260008 中央 140404

書名	百姓が地球を救う	著者	木村 秋則
この本にはリンゴの無農薬栽培に至るまでをサラッとしか書いていないが、『奇跡のリンゴ』（石川拓治著）には、木村さんの苦労が詳しく書かれている。いとも簡単に書かれた一文一文の背景に思いをはせながら読んだ。リンゴは大変だったが、野菜の無農薬栽培は可能と書かれている。これを自分でも家庭菜園で実施しようと思う（17 年間無農薬で栽培してはいるが、さらにこの栽培を、肥料も使わないようにして続けていく）。観察力がすばらしい。			
請求記号:	/615/キ/	感想文を書いた人:	北東北の鎌倉人

260009 中央 140404

書名	奇跡のリンゴ	著者	石川 拓治
信念を持って一つのことをやりとげるには、気の遠くなる様なトライ＆エラーがあった。それをガマンしてやらせてくれた家族もすばらしい。子供の給食費が払えなくても、お父さん頑張れという家族。彼らは身をもって農薬の害を知っていればこそその応援だったのだろう。私達消費者はマスコミにふりまわされ、見た目と便利さだけを求めている、物事の本質を考えていない。これからは、皆で地球全体のことから考えなくてはいけない。			
請求記号:	/625/イ/	感想文を書いた人:	北東北の鎌倉人

260010 田代 140412

書名	すべては宇宙の采配	著者	木村 秋則
『奇跡のリンゴ』で木村さんの自然栽培を知った。無農薬でリンゴを作るまでの苦労には涙した。悩みに悩んで、どうしようもなくなった時、自分の周囲のちょっとしたことから問題が解決していくことがある。それを宇宙の采配によるもの、つまり UFO からのヒントと解したのであろう。UFO には違和感もあるが、農業の工業化が進む昨今に、本来の人間のあり方を問い直せという本である。私も木村さんの考え方に賛同する。			
請求記号:	/625/キ/	感想文を書いた人:	北東北の鎌倉人

平成 26 年度 大館市立図書館『200 字感想文』一般編

260011 BM 140507

書名	大泉エッセイ	著者	大泉 洋 ^{よう}
著者のファンなら今更この作品を手にとっているはずがない。「大泉洋が確かエッセイ出してたはず」くらいで私は読了。笑いメーカーは人それぞれ。だが、「恋の街綾町」「千歳空港での決意」あなたは笑いましたか？ 笑いは全て面白い出来事ではなく“つらさ”から生まれる笑いもあるのだなあ（逆もあり?!）しかし書き下ろしにある「両親が全てを犠牲にして子育て」という文章には違和感。なぜなら私は 35 歳にして独身実家暮らし（涙）。			
請求記号:	/772/オ/	感想文を書いた人:	胃カメラはおいしいらしい???（4. 22 記）

260012 BM 140507

書名	桐島、部活やめるってよ	著者	朝井 リョウ
小説なのに迷っている心を導いてくれる作品。登場人物の誰かに感情移入できたら、ますます得すると思う。 どの世代も共感できる、人間の気持ちというもの。自分の思った通りのことだけをしてよいのか、いわゆる空気を読むべきなのか。 何も 17 歳に限ったことではなく生きる限り度々遭遇することがこの作品中にある。 悩んだ時はチョコミントアイス色の帯とタイトルをめくってまた私は読み返すだろう。			
請求記号:	/913. 6/ア/	感想文を書いた人:	胃カメラはおいしいらしい???（4. 26 記）

260013 BM 140507

書名	医学的根拠とは何か	著者	津田 敏秀
この本の著者、津田さんが「おまえ殺されるぞ」と仲間から忠告された理由は読めばわかります。 素人は体調不良時目の前の医師に頼るしかない。処方された薬を服用するしかない。 近年このような本が読まれているのは、目の前の医師は本当に心あって治療しているのか？と感じる人が多いのではないか。 医学部の実態がこの本の通りなら、医学は日進月歩だと思えない。			
請求記号:	イ/498/ツ/	感想文を書いた人:	胃カメラはおいしいらしい???（5. 2 記）

平成 26 年度 大館市立図書館『200 字感想文』一般編

260014 中央 140520

書名	謹訳 源氏物語（一～二）	著者	紫式部 現代語訳:林 望
他の人の訳と比べて読みやすい。しかし、内容は少しはしょっていて、物足りない。特に紫君が紫上となる箇所は田辺聖子訳だともっと詳しい。男性には書きにくいのかもかもしれない。しかし、源氏は今ならストーカーでしょう。マザコンのストーカーで口先だけは上手。遊びごとのさい配はそれなりにできる。となれば営業でもやらせるか？ でも行く先々で女性とトラブルを起こしそう。この時代、男が泣くのはみっともないとは思われなかったらしい。			
請求記号:	/913. 3/ム/1 同/2	感想文を書いた人:	北東北の鎌倉人

260015 BM 140521

書名	何者	著者	朝井 リョウ
なんとなく手に取っただけなのに、こんなに夢中になって読むとは。 本音を言い合うのは意外と難しいのかもしれないが、やはり必要だ。同時にそもそも SNS は何のために作成されたのかさえ考えた。どこまで信用していいのか？とも。SNS が無い時代を生きていた時もあった。 フェイスブックの「友達」の数で採用者を決定する基準にするという企業も存在するとニュースで流れていた。			
請求記号:	BM/910/ア/	感想文を書いた人:	胃カメラはおいしいらしい??? (5. 9記)

260016 BM 140521

書名	もういちど生まれる	著者	朝井 リョウ
「桐島、部活やめるってよ」「何者」を読了しこの作品。たった3冊でも共通して感じたこと。「自分の目で見て、初めてわかることって、あると思うよ。」 「飛ばなきゃ、何も変わらない」という帯。変わるの難しいし、勇気がいる。一歩踏み出しても後悔もある。その時は「ダメだった」でいいと思う。しかし世界が広がることもある。それが「飛ぶ」ことかもしれない。			
請求記号:	/913. 6/ア/	感想文を書いた人:	胃カメラはおいしいらしい??? (5. 14記)

平成 26 年度 大館市立図書館『200 字感想文』一般編

260017 中央 140603

書名	謹訳 源氏物語（四～六）	著者	紫式部 現代語訳:林 望
源氏というと「雨夜の品定め」の女性論が有名だが、これは若い人達のこと。もっと年とつてからの女性論が、四～六に書かれている。こちらの方が味わい深い。しかし、源氏は言うことと自分の行動が合わない。今流に言うと、この時代の人々は皆ストーカーですね。女性の自立が出家以外にないのもおもしろい。紫式部の知識の深さはすばらしい。			
請求記号:	/913. 3/ム/4～6	感想文を書いた人:	北東北の鎌倉人

260018 中央 BM 140604

書名	難病カルテ 患者たちのいま	著者	まきた まさのり 蒔田 備憲
佐賀県の患者さんのケースは、正直言うと結末はワンパターン。 心身健康な雇用主は職場に持病持ちの人を雇いたいだろうか？ 掲載され、職を得ている患者さんは「ごく一部の恵まれた」患者さんである。 解説にあるように「地域格差」は否めない。障害者福祉関係者・医療関係者が必ずしもスペシャリストではないとは言葉を失う。			
請求記号:	/493/マ/	感想文を書いた人:	胃カメラはおいしいらしい??? (5. 26記)

260019 BM 140618

書名	星やどりの声	著者	朝井 リョウ
素直な気持ちを持つ方は面白いかもしれません。 しかし、家族だからこそ「言う」「言わない」「言えない」で、もがくのかなあと感じました。 ダークを書く著者作品が好きな方はがっかりしてしまうかも……。			
請求記号:	/913. 6/ア/	感想文を書いた人:	胃カメラはおいしいらしい??? (6. 8記)

平成 26 年度 大館市立図書館『200 字感想文』一般編

260020 BM 140618

書名	困ってるひと	著者	大野 ^{さらさ} 更紗
「社会の制度や障害の制度や他人をむやみに頼ってはなりません」。先生の言葉は現実を言っている。 「死」「難」を口にしてはデートの矛盾。 役所等の手続きは所詮「お役所」だがこの一冊全てを Yes と言いたい。 何の偏りもない(感情の)「死」「難」に向き合っている読者の感想を聞きたい。 助けのない病の患者さんなど。			
請求記号:	/916/オ/	感想文を書いた人:	胃カメラはおいしいらしい??? (6. 12記)

260021 BM 140618

書名	骨髄ドナーに選ばれちゃいました	著者	石野 鉄
「為さぬ善より、為す偽善」 きっかけは身近な人であっても、何であっても待っている人がいる。 2ちゃんねる用語であっても目をふせたくなるような言葉が出てきた。 マタリ読んでこんな複雑かつ大変な移植医療。自らの体を傷つけてまで骨髄を提供した方々にも幸多かれ！（骨髄移植についてもっと知りたいと思った。）			
請求記号:	/916/イ/	感想文を書いた人:	胃カメラはおいしいらしい??? (6. 9記)

260022 比内 140625

書名	虚像の道化師(ガリレオ7)	著者	東野 圭吾
警視庁の捜査員達と、物理学者とのコラボレーションで、キーワードから時間をかけ、追い詰めて行く様子、関係者個々の人間模様が読者も一緒に事件を追いかけて、右往左往させられてしまいました。ややこしい事件も多い今、ドラマでは見られない繊細な部分は何かつても身近な問題に感ずるところです。 物理学者と捜査一課の彼女、ゴールインできるでしょうか？ 独身の3人気になりま〜す。			
請求記号:	/913. 6/E/G-7(比内)	感想文を書いた人:	畠山さくら

平成 26 年度 大館市立図書館『200 字感想文』一般編

260023 中央 140627

書名	大統領への道 ヒラリー・ロダム・クリントンの野望	著者	ジェフ・ガース ドン・ヴァン・ナッタ・ジュニア
ヒラリー・ロダム・クリントン(H.R.C.)が大統領選に出るまでの準備、それまでの闘いはずい分複雑。日本の政治家もこれぐらい勉強して立候補しているのだろうか。政治家同士、足のひっぱり合いは日本も同じだけれど、もう少し、国民の為に、国民の方を見てほしい。演説の方法は日米で違うように思う。H.R.C.は、本当はいつから大統領を目指したのだろうか？			
請求記号:	/289/ク/	感想文を書いた人:	北東北の鎌倉人

260024 中央 140627

書名	十人十色「源氏」はおもしろい 寂聴対談	著者	瀬戸内 寂聴
源氏物語＝恋愛と考えている人が多いが、むしろ、いろいろな性格の登場人物を実在の人に当てはめてみるのがおもしろい。その様な読み方をしている人もいて、私の読み方もおかしくはないと思った。それにしても光源氏を好きという人は1人だけだったのは興味深い。私も光はきらいです。イケメンで権力とお金があっても、それだけで女性の心はつかめない。光はナルシスト、自己中のイヤなヤツです。			
請求記号:	/913. 3/セ/	感想文を書いた人:	北東北の鎌倉人

260025 中央 140716

書名	常識哲学	著者	なだ いなだ
常識という言葉は、明治にできたというのがおもしろかった。昔よく女性がヒステリーをおこしていたのは、常識でかくあるべしとしばられていたのが苦しかったからという説には納得。常識は時代とともに、そしてその国によっても異なる。でも常識が無いと言われると腹が立つのは何故だろう。			
請求記号:	/914.6/ナ/	感想文を書いた人:	北東北の鎌倉人

平成 26 年度 大館市立図書館『200 字感想文』一般編

260026 中央 140722

書名	若菜集	著者	島崎 藤村
『若菜集』の〈初恋〉まだあげ初めし前髪の……。この詩は「人こひ初めしはじめなり」とあるように、物心ついて、はじめて知った胸のときめきを、リンゴ畑を背景にして、思い出ふうに綴った恋愛詩です。 「花ある君」は島崎家の隣家（大黒屋の長女ゆふ）がモデルです。ゆふは藤村と同年で、幼な友だちだった。 若菜集まだあげ初めし前髪の兄とふたりで読んだ遠い日 山口良子（北鹿新聞短歌）			
請求記号:	/911/N/1 など	感想文を書いた人:	北條祐二

260027 中央 140722

書名	吾輩は猫である	著者	夏目 漱石
最近、『吾輩は猫である』を読みなおしてみた。猫の目を通して人間社会を観察し、人間のわがままや、おろかさ、ずるさなどを見つけて、すどく批評している。 漱石の文体はテンポがいい。さすがは落語好きだっただけのことはある。ノリが良くて読みやすい。漱石先生の名調子に、つい暗誦したくなる書出した。漱石事典を引きながら、わからない個所は、飛ばし読みしても含蓄があり、なかなかおもしろく読める作品です。			
請求記号:	/913/N/40	感想文を書いた人:	北條祐二

260028 中央 140724

書名	名探偵ポワロの華麗なる生涯	著者	アン・ハート著 深町 真理子訳
ポワロの出てくる小説を何冊か続けて読むと、解決方法がパターン化して、途中からは、はしょって読んでしまうこともあった。読む順番も図書館にある本を手当たり次第だったので、ポワロの生涯を考えたことはなかった。 今この本を読んで、もう一度ポワロの本を読みたいと思った。できれば英語で。大館の図書館でそろえてもらえないだろうか。			
請求記号:	/930/H/	感想文を書いた人:	北東北の鎌倉人

平成 26 年度 大館市立図書館『200 字感想文』一般編

260029 中央 140724

書名	できればムカつかずに生きたい	著者	田口 ランディ
読後に気持ちが悪くなった。『もう消費すら快樂じゃない彼女へ』を読んだ時に、少し視点の違う人で面白いかなと思って、2 冊目にこの本を読んだ。どのように後味が悪いかを自分で表現できないのは残念だが、少なくともこの作者とは友達になりたいとは思わない。 何の為に彼女は本を書いているのだろう。問題点を提供して考えさせる為？自分の意見を言う為？これ以上は彼女の問題点も、考えも知りたくはない。			
請求記号:	/914.6/ﾀ/	感想文を書いた人:	北東北の鎌倉人

260030 中央 140725

書名	雪渡り	著者	宮沢 賢治
この童話は村の子どもたちが堅い雪を踏んでキツネのお祭(幻燈会)に出かける話で、結晶のように光る雪原に月の光がこうこうと照る描写は夢のようだ。子どもたちは「堅雪(かたゆき)かんこ、凍(し)み雪しんこ」と歌うたいながら歩くのだが足の下でキックキックと鳴る雪の音は、温暖化で今では聞くことは無くなったが私の子供の頃は夜など外を歩く雪ゲタのキュッキュッと鳴る雪の音を聞きながら「明日もしばれるなあ」と話していたものでした。			
請求記号:	/E/M/ など	感想文を書いた人:	斉藤丈二

260031 中央 140725

書名	夢十夜	著者	夏目 漱石
「こんな夢を見た」で始まる『夢十夜』は、読んだその時から無意識を意識させられてしまう十の物語だ。 「第一夜」の夢だけは、百年待つことによってはじめて願望を達せられているが、その他の「第二夜～第十夜」の夢はすべて過去、現在、未来にわたっての不合理、不思議、運命など、ひとくちでは解明出来ないものが並べたてられている。 これは漱石の魅力をさぐるための作品でもある。			
請求記号:	/918/ /11 など	感想文を書いた人:	斉藤丈二

平成 26 年度 大館市立図書館『200 字感想文』一般編

260032 中央 140802

書名	なめとこ山の熊	著者	宮沢 賢治
この童話は生活のために熊をうたねばならぬ猟師小十郎のつらい心と、小十郎をだます町の商人と、山で死ぬ小十郎の最期をとむらう熊たちの話です。小十郎と熊の奇妙な友情を賢治はこう書いている。 ある年の夏のことだ。彼は大熊を撃とうとすると、熊は両手をあげて叫んだのだ。 「おまえは何がほしくて、おれを殺すんだ」—————。 あとは読んでもらいたい。子供たちにも読んで聞かせたくなる作品です。			
請求記号:	J/913/ミ/6 など	感想文を書いた人:	今西操

260033 中央 140802

書名	宮沢賢治詩集「永訣の朝」	著者	宮沢 賢治
「無声慟哭」三部作は妹トシの臨終の日に書かれたものです。なかでも私は「永訣の朝」の詩が一番好きです。妹トシの死(大正 11 年 11 月 27 日)は賢治の生涯で重大な意味をもっている。日本女子大を出て母校の花巻高女で教べんをとっていたトシは賢治の理解者でもあった。妹の死後 8 ヶ月も詩作が出来なかったことからしても、詩想が湧き出す賢治としては異常なことです。この詩から妹の死がいかに大きな衝撃だったかがうかがえます。			
請求記号:	/918.6/ミ/2	感想文を書いた人:	今西操

260034 中央 140807

書名	草枕	著者	夏目 漱石
『草枕』の冒頭でよく知られている格調高い名文を紹介しよう。 山道を登りながらこう考えた。智に働けば角が立つ、情に棹させば流される。絵に描きたくなる一瞬がテーマで、この作品からは漱石の文明批判も聞くことが出来る。 大学入試によく出る『草枕』の情に棹さすの意味は、人情に逆らうではなくて、正しくは、人情だけを大切だけに考えると、他人の気持ちに引ききずられてしまうということらしい。			
請求記号:	J/908/ア/37	感想文を書いた人:	西本じゅん

平成 26 年度 大館市立図書館『200 字感想文』一般編

260035 中央 140807

書名	赤毛のアン	著者	L・M・モンゴメリー (村岡 花子訳)
NHK の連続テレビドラマ「花子とアン」に触発されて『赤毛のアン』を読んでみた。アンはモンゴメリーのペンから生まれた架空の人物ですが、読む人に生きていく素晴らしさを語りかけ、強さ、やさしさを与えてくれる魅力的な少女です。翻訳は真意が伝わるものでなければなりません。カナダ人教師達や英文学から身につけた文化や歴史の上に成り立った言語や生活習慣・思想に根ざした花子の違和感のない翻訳に一気に読み切りました。			
請求記号:	/933/M/1	感想文を書いた人:	西本じゅん

260036 中央 140827

書名	高瀬舟縁起	著者	森 鷗外
『高瀬舟』の楽屋裏を語ったものとして『高瀬舟縁起』という作品がある。死にかかって死なれず苦しんでいる人を死なせてやれば殺すということになる。どんな場合にも人を殺してはならない。ここに病人がいて死に瀕している。それを救う手段が全くない、そばで見ている人は長く苦しませずどうせ死ななくてはならぬものなら早く死なせてやりたいという情は必ず起る。楽に死なせてその苦を救ってやるのが良いというこれを安楽死という。			
請求記号:	/918.6/モ/3	感想文を書いた人:	佐々木道夫

260037 中央 140827

書名	高瀬舟	著者	森 鷗外
弟が病気で働けなくなり「兄を一人で稼がせては済まないどうせなおりそうもない病気だから死んで少しでも兄貴に楽がさせたいと思った自殺に手を貸してくれ苦しいから早く頼む」が手を貸すと殺したのだといわれる。 苦しみから救ってやろうと思って命を絶ってやった。しかしそこに疑問が生じてどうしても解せなくなる。弟殺しの罪で島流しにされる男の告白の中に安楽死の問題を時代を超えて鋭く現代に問いかけている代表作だ。			
請求記号:	/913/M/34 など	感想文を書いた人:	佐々木道夫

平成 26 年度 大館市立図書館『200 字感想文』一般編

260038 中央 140827

書名	高瀬舟	著者	森 鷗外
『高瀬舟』は広く知られた作品であるが、専門家の間では批判的な評が今日まで続いている。『高瀬舟私考』の田中実(武蔵高校教師)の説の結論を要約すると「分身としての弟を自分の手で殺す、しかも弟は自分を生き延びさせるために死のうとした。この思いが意識下の喜助の深奥まで決定的に変えさせたのではないか」と、ある。通常の常識的世界にある庄兵衛にとって喜助があたかも菩薩の如く豪光(ごうこう)を放つ所以はここにあるはずである。			
請求記号:	/913/M/34 など	感想文を書いた人:	佐藤誠二

260039 中央 140827

書名	山椒大夫	著者	森 鷗外
短編小説『山椒大夫』は、姉安寿の中に人買いのために母と引離された受難に自分を犠牲にして運命を切り拓いていく女性の意識的な生き方が全編を通し一貫して流れている。鷗外はこの作品を通して献身、自立、犠牲、奴隷解放問題にも触れている。古典的な良さ色あせない珠玉の作品にあらためて心を打たれます。先輩としてこのような作品にふれる手助けをしていかなければならない必要性を実感しました。			
請求記号:	/913/M/32 など	感想文を書いた人:	佐藤誠二

260040 中央 141002

書名	毎日がおいしい工夫	著者	村上 祥子
かん詰めを冷蔵庫に保管しておくを使う時に便利というのにはあきれた。かん詰めは室温保存できるもので、常時冷蔵庫に入れて置くと大きな冷蔵庫が必要になり、エネルギーのムダ使いである。献立を考えて、使用する数時間前に冷やすぐらいの計画性がほしい。目のことだけ考えないで、地球全体のことも考えるべきです。これはというアイデアにあふれた料理はなかった。			
請求記号:	596/M	感想文を書いた人:	北東北の鎌倉人

平成 26 年度 大館市立図書館『200 字感想文』一般編

260041 中央 141102

書名	「イチローの成功習慣」に学ぶ	著者	児玉 光雄
イチローは相対的な比較ではなく、絶対値の向上を求めていることを多くの事例で紹介している。本来、教育もそうあるべきだと思う。他人と比較ばかりするから落ちこぼれが出てくる。昨日できなかったことが今日できたら、それを進歩として喜べば良い。秋田県の小中学生は全国テストで成績がいいと言われているが、実社会での応用力がなければ、何の役にも立たない。秋田の会社に来て、より痛切に秋田県人の応用力不足を感じた。			
請求記号:	/783/コ/	感想文を書いた人:	北東北の鎌倉人

260042 中央 141102

書名	いなかのせんきょ	著者	藤谷 治
この本のタイトルには「いなか」とあるが、日本全体の選挙のことをコミカルに表現していると思う。金権選挙はいなかばかりではないことは毎日のニュースで明らかである。また本来のあるべき姿をスローガンにしても選挙民の多くは、それを理解できないということも示している。日本中の人がこの本を読んで、「せんきょ」を見直してみればいいのに。でも人によって感じ方は様々だからなあ…			
請求記号:	/913.6/フ/	感想文を書いた人:	北東北の鎌倉人

260043 中央 141202

書名	サイエンスカフェにようこそ！	著者	滝澤 公子 ほか
それぞれの分野の専門家が、素人にもわかりやすく研究分野のトピックスを紹介している。こういう会が大館でも開催できないだろうか。この本では最先端の専門家達の話だが、それこそ大工さんか、北国の家はどこか痛みやすいとかというテーマでもいいと思う。もし対象者(参加者)を高校生向けにするのなら、いろいろな仕事の実際(実態)の話でもいいと思う。			
請求記号:	/404/サ/	感想文を書いた人:	北東北の鎌倉人

平成 26 年度 大館市立図書館『200 字感想文』一般編

260044 中央 141202

書名	すべて分析化学者がお見通しです	著者	津村 ゆかり ほか
私は大学で化学を学び、その後40年、2つの製薬会社で化学を生かして医薬品、ビタミン等の分析の仕事をしてきた。そういう意味では私も一分析化学者であったわけである。だから私にとってはよく理解できる内容ではあるが、物足りない内容でもある。一般の人にはこの程度でいいのかな？			
請求記号:	/433/ス	感想文を書いた人:	北東北の鎌倉人

260045 中央 150204

書名	水上のPASSACARIA	著者	海野 ^{あお} 碧
田舎暮らしをしていた主人公に降りかかった一連の出来事。一見すると、かつての仕事の後片付けのような、なんでもないことだが、読み込んでいくと無関係と思われた強盗殺人や昔の仲間との関係も絡んできて、あれも伏線だったのかとハッとする。 あまり執着心のない主人公が、恐らく唯一大事にしていた恋人。彼女を想いながら湖上でPASSACARIAを聴くラストシーンは、とても感慨深いものだった。			
請求記号:	/913.6/ウ	感想文を書いた人:	朔

260046 中央 150204

書名	迷宮のファンダンゴ	著者	海野 ^{あお} 碧
前作『水上のPASSACARIA』から主人公の設定だけを引き継いで、新たな物語が始まる。サバイバルキャンプ時代に知り合った女性と偶然再会するのだが、そこから昔のことをよく思い出すようになり、なんとなく感傷的な主人公。前作とは印象が変わる。 全てが決着した後やはり主人公は大切な人を失っているが、すがすがしいとは言えなくとも、悲壮感もあまり無いので、読後もすっきりしたような不思議な気分だった。			
請求記号:	/913.6/ウ	感想文を書いた人:	朔

平成 26 年度 大館市立図書館『200 字感想文』一般編

260047 中央 150204

書名	真夜中のフーガ	著者	海野 ^{あお} 碧
このシリーズは、主人公がいざこざに巻き込まれそれを始末する形で解決するという、ある意味フーガのように、事件を変え登場人物を変えと同じような物語が展開してきた。その過程で一つずつ過去と決着をつけてきた主人公は、今回「大道寺勉」としての人生に一つのけじめをつけた。必ずしもハッピーエンドとは言えないが彼なりに納得できる結末を選び、やっと自分が「大道寺勉」であることを認められたのだと思う。			
請求記号:	/913.6/ウ	感想文を書いた人:	朔

260048 中央 150204

書名	屍者の帝国	著者	伊藤 ^{けいかく} 計劃 円城 ^{えんじょう} 塔
死者を労働力として使役する社会という世界観から、まさか人間の意識とは何かを問う主題に発展するとは。興味深く、引き込まれて読んだが、言わんとするところを理解出来たかは自信が無い。 エピローグの言葉はまるで円城氏が伊藤計劃に語りかけているようで、彼からの弔辞なのかな、と思った。死の淵にありながら、このような世界観を作った伊藤計劃氏の皮肉ぶりに脱帽すると共に最敬礼と拍手。			
請求記号:	/913.6/イ	感想文を書いた人:	朔

260049 中央 150218

書名	さよなら神様	著者	麻耶 ^{ま や ゆ たか} 雄嵩
一番始めに犯人の名前が明らかにされ、それを裏付けるため、あるいは覆したいために犯行の動機やアリバイを探っていく、ハウダニットに重点を置いた小説。登場人物が小学生なので違和感はあるが推理も論理的だし、真相に捻りもあって面白い。 「神様」に翻弄される様を強調しているのは最終章のためなのだろうが、主人公が最後に全ての思惑に気付きながらも開き直っている感じが、あまり腑に落ちなかった。			
請求記号:	/913.6/マ	感想文を書いた人:	朔

平成 26 年度 大館市立図書館『200 字感想文』一般編

260050 中央 150218

書名	オレンジだけが果物じゃない (文学の冒険シリーズ)	著者	ジャネット・ウィンターソン (岸本 佐知子 訳)
半自伝的なデビュー作。まずこんな強烈な子供時代があったのかと疑いたくなる。 子供にとって母親は絶対で、疑念を抱く余地もない。だから主人公は世間とずれていようが学校で浮いていようが幸福だった。ところが 1 人の少女と恋に落ちたことでその世界は崩壊する。このような子供時代の閉じた幸せな世界の終末は誰にでも訪れるものだろう。それでもこの本が重苦しくならないのは、軽妙な語り口と強く生きる主人公のお陰である。			
請求記号:	/933/ウ	感想文を書いた人:	朔

260051 中央 150301

書名	アルバトロスは羽ばたかない (七海学園シリーズ2)	著者	ななかわ か なん 七河 迦南
屋上からの転落事件と、児童養護施設を舞台に起こる様々な事件が、沢山の伏線を通して緩く繋がっている構成。具体的な形にはならないけれど漠然とした違和感は最初からあって、真相が明らかになった時には、成る程と膝を打った。 それぞれの事件も痛ましいけれどちゃんと救いが用意されていて、安心して読めた。苦しいにも関わらず希望を持ち続ける主人公達の強さ、優しさが胸に沁み、温かくなる。			
請求記号:	/913.6/ナ	感想文を書いた人:	朔

260052 中央 150301

書名	失われた時のカフェ	著者	パトリック・モディアノ (平中 悠一 訳)
「ルキ」と呼ばれる 1 人の女性について、章毎に4人の語り手によって語られる。時間や場所を行ったり来たり、確かな痕跡を残そうとしながらも、どこか不確かな所へ飛び立とうとし、若者たちは行き場を失う。 謎は明かされることなく、寧ろ絶望的なまでに突きつけられて物語が終わってしまう呆気なさはとてもフランス的。謎をそのまま受容するような印象で、この堂々巡りな感じが＜永遠のくりかえし＞なのかもしれない。			
請求記号:	/953/モ	感想文を書いた人:	朔

平成 26 年度 大館市立図書館『200 字感想文』一般編

260053 中央 150315

書名	世界を戦争に導くグローバリズム	著者	中野 ^{たけし} 剛志
アメリカの大統領を、理想主義者と現実主義者に分類して、現代の各国の紛争を説明している。大変わかりやすかった。面白く読めて、新聞の理解にも役立つ。まあ一つの見方ではあろう。			
請求記号:	/319/ナ	感想文を書いた人:	北東北の鎌倉人

260054 中央 150318

書名	無罪	著者	スコット・トゥロー (二宮 ^{けい} 馨 訳)
『推定無罪』の続編となる作品。一人称による叙述が心理描写を際立たせ、心理小説のようでもある。語り手が次々と入れ替わり、また現在と過去を行き来することで事の顛末が明らかになっていく構成が面白い。 後半は緊迫の法廷シーン。両者の駆け引きや証人の心境に臨場感があった。 主人公には感情移入しづらいが、ライバルには不思議と愛着が湧いた。主人公のアンチヒーローぶりもある意味面白いと思う。			
請求記号:	/933/タ	感想文を書いた人:	朔

260055 中央 150318

書名	七人の探偵のための事件	著者	芦辺 拓
複数の探偵が登場するお祭りのような作品。既知の探偵も含め七人はそれぞれに違った魅力があり、随所で披露される蘊蓄も興味深く面白かった。探偵小説への憧憬やミステリの趣向がふんだんに組み込まれた贅沢なつくりとなっていて、探偵小説好きには楽しい。 作品の性質上、登場する探偵を知らなかったり、心理描写の物足りなさで好みは分かれると思う。しかしこれをきっかけに他の小説も読みたくなるのでそれも一つの楽しみ方。			
請求記号:	/913.6/ア	感想文を書いた人:	朔

平成 26 年度 大館市立図書館『200 字感想文』一般編

260056 中央 150325

書名	数学史の小窓	著者	中村 滋
科学にとって数学は道具、つまり奴隷である。しかし、その数学を築き上げるには多くの天才と、彼らの理論を理解できる秀才達の存在も不可欠であつたろう。IT もなかった時代に、どうやって一人の天才は次の天才や秀才達とめぐり会えてきたのか不思議な気がする。土地の測量や天体の動きを知るために数学が発展してきたというのも、人の営みと自然界の営みの二つの面が必要だったというのも面白い。			
請求記号:	/410/ナ	感想文を書いた人:	北東北の鎌倉人